

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 6

年 次 報 告 書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

## ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2016年度は、協会の主要事業である「コスモス国際賞」（第24回）の受賞者に東京大学名誉教授の岩槻邦男博士を選出いたしました。岩槻博士は、生物学を追求するにあたり、単一の生き物を題材にした解析的な研究だけでなく、地球に存在する多様な生き物の相互関係に焦点を当て、統合的に解明することに努めてこられました。この研究の推進により、博士のご専門である植物分類学の分野のみならず、アジアを中心とする生物多様性の保全に対し、多大な貢献を果たされ、自然と人間との共生をめざすコスモス国際賞にふさわしい優れた業績と評価いたしました次第です。

助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。

本書は、これら2016年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

最後に、2016年11月1日に当協会は設立25年の節目を迎えました。これも偏に関係各位のご指導、ご協力の賜物と感謝申し上げます。さらに各事業を推進してまいり所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

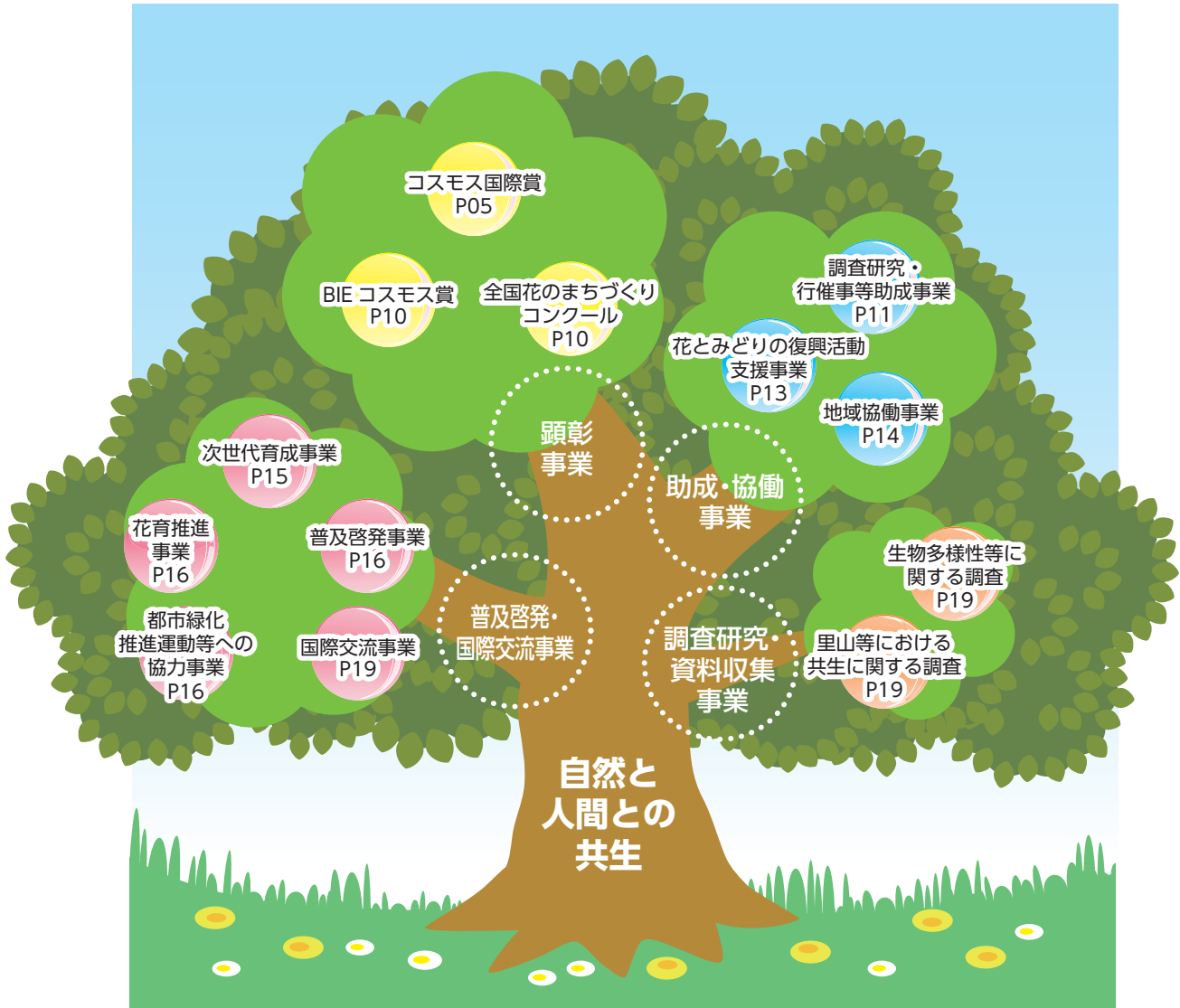
## 皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者岩槻邦男博士は皇太子同妃両殿下とお会いになった。

(平成28年11月17日 東宮御所にて)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2016年(第24回)受賞者を迎え、授賞式等を次のとおり実施しました。

**受賞者の選考等** コスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<2016年(第24回)受賞者の選考・決定等>

第1回・第2回選考委員会(平成28年5月14日、5月24日)

第3回選考委員会(平成28年6月22日)

第2回賞委員会(平成28年6月22日)

2016年コスモス賞受賞候補者に岩槻邦男博士(東京大学名誉教授、兵庫県立人と自然の博物館名誉館長)が選出されました。

第87回理事会(平成28年7月20日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、7月20日に内外の報道機関に対し、記者発表等を実施しました。



2016年(第24回)コスモス賞受賞者

岩槻邦男博士

(東京大学名誉教授、兵庫県立人と自然の博物館名誉館長)

地球上に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

<2017年(第25回)受賞者の選考等>

第1回賞委員会(平成29年1月11日)

2016年  
(第24回)  
コスモス賞  
授賞式の開催

国内外の賓客及び招待者約420名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成28年11月8日(木)午後3時~5時

場 所:いずみホール[大阪市中央区]

出席者:約420名

次 第:開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介

主催者紹介 来賓紹介(鈴木良典農林水産省大臣官房生産振興審議官、榑野義明国土交通省大臣官房審議官、竹内廣行大阪府副知事、上田正敏大阪市建設局理事兼経済戦略局理事)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介

受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈

メダル贈呈 来賓祝辞(安倍晋三内閣総理大臣)

受賞者講演 祝賀演奏 閉会



## 2016年度事業実績

### 顕彰事業

2016年コスモス国際賞受賞  
記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として2016年受賞者の岩槻邦男博士による講演会を開催しました。

	●大阪	●東京
日時	平成28年11月14日(月) 午後4時～午後6時	平成28年11月21日(月) 午後4時～午後6時
場所	大丸心斎橋劇場 〔大阪市中央区心斎橋筋1-7-1〕	東京大学 安田講堂 〔東京都文京区本郷7-3-1〕
講演	テーマ 「生物多様性を生きる」	
	講師 2016年コスモス国際賞受賞者 岩槻 邦男 博士(東京大学名誉教授、兵庫県立人と自然の博物館名誉館長)	
次第等	受賞者紹介 今福 道夫 氏 (京都大学名誉教授・コスモス国際賞選考専門委員会副委員長)	受賞者紹介 武内 和彦 氏 (東京大学大学院教授・コスモス国際賞選考専門委員会委員長)
	対談 岩槻 邦男 博士 井田 徹治 氏 (共同通信社編集委員・論説委員)	トークセッション 岩槻 邦男 博士 国谷 裕子 氏 (キャスター、コスモス国際賞選考専門委員会委員) デディ・ダルナエディ氏 (インドネシア科学院生物学研究センター教授)
参加者	約200名	約800名
共催		東京都教育委員会
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府(大阪開催)、大阪市(大阪開催)	



## コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年  
ギリアン・ブランス 卿  
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年  
ジャック・フランソワ・バロー  
(物故)  
Dr. Jacques Francois Barrau



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年  
吉良龍夫  
(物故)  
Dr. Tatu Kira



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年  
ジョージ・ビールズ・シャラー  
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年  
リチャード・ドーキンス  
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年  
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド  
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年  
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)  
(物故)  
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年  
デービッド・アッテンボロー卿  
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年  
アン・ウィストン・スパーン  
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であると、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年  
チャールズ・ダーウィン研究所  
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

コスモス国際賞歴代受賞者

2003年(第11回) 平成15年  
ピーター・ハミルトン・レーブン  
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長  
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年  
フーリャ・カラビアス・リジヨ  
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授  
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年  
ダニエル・ポーリー  
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授  
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を取めた。

2006年(第14回) 平成18年  
ラマン・スクマル  
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所 生態学センター教授  
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年  
ジョージナ・メアリー・メイス  
Dr. Georgina Mary Mace



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授  
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年  
ファン・グエン・ホン  
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授  
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年  
グレッチェン・カーラ・デイリー  
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授  
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年  
エステラ・ベルゲレ・レオポルド  
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授  
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年  
海洋生物センサス科学推進委員会  
The Scientific Steering Committee of the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年  
エドワード・オズボーン・ウィルソン  
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授  
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。



## コスモス国際賞歴代受賞者

2013年(第21回) 平成25年  
ロバート・トリート・ペイン  
(物故)  
Dr. Robert Treat Paine



米国・ワシントン大学名誉教授  
生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年  
フィリップ・デスコラ  
Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授  
人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年  
ヨハン・ロックストローム  
Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長  
人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

### 委員会

#### コスモス国際賞委員会 平成28年4月1日現在(50音順)

- 委員長 岸本 忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授  
副委員長 尾池 和夫 京都造形芸術大学学長  
委員 浅島 誠 東京理科大学副学長  
委員 池内 了 総合研究大学院大学名誉教授  
委員 磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授  
委員 小山 修三 一般財団法人千里文化財団理事長  
委員 佐々木 恵彦 公益財団法人国際緑化推進センター理事長  
委員 武内 和彦 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・教授  
委員 西澤 直子 石川県立大学生物資源工学研究所教授  
委員 林 良博 独立行政法人国立科学博物館館長  
顧問 有馬 朗人 学校法人根津育英会武蔵学園学園長  
顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館館長

#### コスモス国際賞選考専門委員会 平成28年4月1日現在(50音順)

- 委員長 武内 和彦 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・教授  
副委員長 今福 道夫 京都大学名誉教授  
委員 秋道 智彌 山梨県立富士山世界遺産センター所長  
委員 モンテ・カセム 立命館大学名誉教授  
委員 国谷 裕子 キャスター  
委員 ケビン・ショート 東京情報大学環境情報学科教授  
委員 中 静 透 東北大学大学院生命科学研究所教授  
委員 野家 啓一 東北大学教養教育院総長特命教授  
委員 村上 哲明 首都大学東京大学院理工学研究科教授  
委員 鷺谷 いづみ 中央大学理工学部教授

## 顕彰事業

### 2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しています。平成28年度は、2017年アスタナ万博において授賞される第5回BIEコスモス賞について、カザフスタン・アスタナにて、BIEとアスタナ万博協会との協議を行い、具体的な実施方法を決定しました。

これを受けて、平成29年2月から29年4月にかけて全世界に公募が行われています。

なお、第5回BIEコスモス賞の授賞式（平成29年9月9日）では、賞金2万ユーロの提供を予定しています。



### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに参画しました。

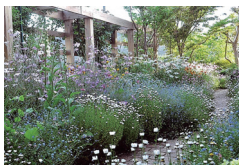
第26回  
(2016年)全国  
花のまちづくり  
コンクール

主 催 者：花のまちづくりコンクール推進協議会  
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)  
入賞/応募数：26件/1868件  
表 彰 式：平成28年10月28日(水)、東海大学校友会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



天野和幸



吉田博美

国土交通大臣賞



熊谷哲・恵子



宮崎空港ビル株式会社

助成・協働  
事業

1. 調査研究・開催事等の助成事業

花の万博の理念の継承発展又は普及啓発のため調査研究、技術開発、活動、開催事を支援する助成事業を実施しました。

平成28年度  
助成事業

平成28年度は35件の事業に助成しました。

●事業区分	●助成事業名	●助成団体名
調査研究開発	富士山の保護上重要な野生植物の生態と分布調査	富士山自然誌研究会
	大台ヶ原におけるヒノキ自然林の生態学的特性の解明	奈良自然環境研究会
	亀岡ツバメ調査2016	亀岡みらいペース
	草原環境の保全のための野生動物植物のモニタリング調査	特定非営利活動法人生物多様性研究所あーすわーむ
	絶滅状態にある海浜植物の保護増殖と砂浜回復活動	特定非営利活動法人サンチュアリエヌピーオー
活動・開催事	東日本大震災被災後5年目の東北地方社叢調査	特定非営利活動法人社叢学会
	境川・清住緑地 大湧水公園エコロジーアップ事業	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
	第17回国際土壌動物学会	日本土壌動物学会
	日中韓国際ランドスケープ専門家会議国際シンポジウム	公益社団法人日本造園学会
	小児科となりのセラピーガーデン	春江大好きプロジェクト
	海藻押し葉展覧会in札幌	特定非営利活動法人利尻ふる里・島づくりセンター
	花・緑と音楽で結ぶ日韓国際交流	特定非営利活動法人オープンガーデンサンフラワー宮崎
	元学校林を中心としたこども森遊び活動と森の整備事業	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター
	かめおか里山里道のトレイルの活用―植物回廊図鑑―	かめおか里道里山探検倶楽部
	伊吹の葉草復活プロジェクト	伊吹くらしのやくそう倶楽部
	きのこを通して福島森を学ぶ親子の環境学習事業	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会
	四万十川流域に自生する希少植物・飛来するツルの保護	四万十川自然再生協議会
	ピオトップ造成地への植栽事業	久保川イーハートフ自然再生協議会
	自然の恵みを体感する森林教室	特定非営利活動法人吉里吉里国
	百花の王、日本のキク作り、理論と技術を身につける	希望の開拓菊サロン
	リハビリテーションの花園づくり	特定非営利活動法人居宅支援システム実践
	白神山地に地球温暖化防止のために木を植えるプログラム	特定非営利活動法人白神山自然学校一ツ森校
	住民自ら参画する協働のまちづくり	特定非営利活動法人花と緑あふれる日本のまちづくり協会
	日本さくらそう見学会	特定非営利活動法人つくばアーバンガーデニング
	首里城公園に椿を植樹する取り組み	沖縄椿協会
	かのご里山村・竹活プロジェクト	かのご里山村
	昆虫調査隊	一般社団法人エコロジー・カフェ
	公園を学びの場とした学習プログラム開発と実施	滋賀県立琵琶湖博物館はしかけグループびわたん
	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然体験	公益財団法人金沢子ども科学財団
	花やいけばなを活用した介護予防、心のケア、地域交流	特定非営利活動法人フラワー・サイコロジ協会
	市民による「蝶が舞う花と緑のまちづくり」事業	狭山池さくら満開委員会
	琵琶湖のヨシと、コケを使った子供 環境全体験学習	特定非営利活動法人モスグリーンEco
	岡本南(桜守)公園のサクラの保全対策立案	特定非営利活動法人樹木研究会こうべ
	花・緑のまち事業	公益財団法人鹿児島県地域振興公社
	休耕地の活用・再生を目指す混植農法研究活動	生駒高山ラインガルデン村



かのご里山村・竹活プロジェクト



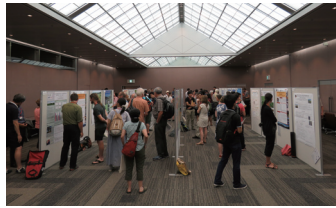
公園を学びの場とした学習プログラム開催と実施



海藻押し葉展覧会in札幌



花・緑のまち事業



第17回国際土壌動物学会



日本さくらそう見学会

## 2016年度事業実績

### 助成・協働事業

#### 平成29年度 助成対象の決定

平成29年度の助成対象を決定しました。

〈公募〉公募期間:平成28年8月1日(月)～9月16日(金)

〈審査〉審査期間:平成28年10月～平成29年1月

〈決定〉助成事業審査会の審査結果は理事長に答申され、助成対象35件を第92回理事会にて決定しました。

#### 助成事業 成果発表会の開催

助成事業の成果を広く波及させるため、助成事業成果発表会等を開催しました。

日 時:平成28年12月14日(水)午後1時～午後6時30分

場 所:サンスクエア堺「サンスクエアホール」(大阪府堺市堺区)

来場者:約200名

内 容:過去の助成団体の中から6団体が事業内容やその成果についての発表を行うと共に、西畠清順氏(そら植物園代表、プラントハンター)により「ひとの心に植物を植える」～そら植物園の活動について～と題する講演会、団体と参加者による交流会を開催しました。

共 催:公益財団法人堺市公園協会

協 力:堺千年の森クラブ

後 援:農林水産省、国土交通省、大阪府、堺市、(公財)助成財団センター、(公財)日本花の会、(一財)日本花普及センター、(公社)日本植物園協会、(公財)都市緑化機構、(一社)日本公園緑地協会



#### 委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成28年4月1日現在(50音順)

委員長 丸山 宏 名城大学農学部教授

委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授

委員 須磨佳津江 キャスター・ジャーナリスト

委員 永田 萌 イラストレーター・絵本作家

委員 林 孝洋 近畿大学農学部農業生産科学科教授

委員 鷺谷いづみ 中央大学理工学部人間総合理工学学科教授

## 2. 花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を支援するための助成事業を実施しました。  
なお、本事業は、阪急電鉄株式会社からの寄附金により実施しています。

平成28年度  
支援内容

公募期間：平成28年3月1日(火)～4月30日(土)  
採択／応募件数：13／23件  
助成総額：500万円

●団体名	●所在地	●内容
都路町第7行政区	福島県	未来へつなぐ「さくらプロジェクト」
特定非営利活動法人スマイルシード	宮城県	【野外環境コミュニティ体験】～美化活動～
特定非営利活動法人海への森をつくろう会	宮城県	希望の花プロジェクト
ローズマリーの会	岩手県	花壇整備及びローズマリー祭りの開催
特定非営利活動法人サンガ岩手	岩手県	復興の花壇に集おうプロジェクトⅡ
スマイルいわて	岩手県	スマイルとうほくプロジェクト
水戸桜川千本桜プロジェクト	茨城県	水戸桜川千本桜プロジェクト
西会津富士の郷	福島県	愛宕山に桜を植栽する事業
逢瀬さくらの里	福島県	花花花!桜の里の菜の花・コスモス大作戦
特定非営利活動法人越喜来の景観形成と住民交流を図る会	岩手県	花による浸水地の景観形成と住民交流事業
白坂地区町内連合会	福島県	「白坂泉岡広場」整備事業
災害対策ボランティアネットワーク	千葉県	被災地障がい者施設 花、果樹苗プロジェクト
日本ハンギングバスケット協会 福島支部	福島県	花育活動(寄せ植え製作や花の名前、育て方を指導)



ローズマリーの会



スマイルいわて



日本ハンギングバスケット協会福島支部

花とみどりの  
復興活動支援助成  
事業成果発表会

平成23年から実施している花とみどりの復興活動支援助成事業の支援団体が60余に及びことから、活動成果の情報の共有と団体間のつながりを促進するため、成果発表会・交流会を開催しました。

日 時：平成29年3月17日(金) 正午～午後6時45分

場 所：コラッセふくしま〔福島市三河南町〕

参加団体数：20団体

来場者：約100名

後 援：農林水産省、国土交通省、復興庁、青森県、岩手県、宮城県、福島県、福島市、茨城県、千葉県、(公財)都市緑化機構、(公社)日本家庭園芸普及協会、(一社)日本公園緑地協会、(公財)日本花の会、(一社)日本植木協会、(一社)日本造園建設業協会、福島民報社、福島民友新聞社



委員会

花とみどりの復興活動支援事業審査員 平成28年6月1日現在(50首順)

委員 久山 敦 一般財団法人大阪スポーツみどり財団 咲くやこの花館館長  
委員 長村 智司 一般社団法人フラワーソサイエティー 会長  
委員 吉田 昌弘 株式会社空間創研 取締役会長

助成・協働  
事業

3. 地域協働事業

花の万博の理念継承及び普及啓発のため、地方公共団体、企業、ボランティア、住民等と協働しての花と緑のまちづくり事業を実施しました。

子どもたちと育てる  
花とみどりによる  
コミュニティづくり  
事業

小中学校や地元団体と協働し、子どもたちが育てた花の苗などを通して、人々の結びつきや地域の結束力を固めることで、地域コミュニティの向上を図るとともに都市緑化を推進することを目的とし、実施しました。

●実施団体	●所在地
木津川市立棚倉小学校	京都府木津川市
亀岡市立東別院小学校	京都府亀岡市
京都市立朱雀第四小学校	京都市中京区
大阪市立西島小学校	大阪市此花区
飛鳥中学校区学校運営協議会	奈良県奈良市
堺市立富山台小学校	堺市南区
大阪市立小路小学校	大阪市生野区
泉大津市立条東小学校	泉大津市
登美ヶ丘中学校区地域教育協議会	奈良県奈良市
大阪市立すみれ小学校	大阪市城東区
神戸市立鈴蘭台中学校	神戸市北区



朱雀第四小学校



条東小学校



富山台小学校



登美ヶ丘中学校区地域教育協議会

第5回みどりの  
交流広場

みどりの環境創出や保護の活動をしている市民、企業、団体等の発表の場を設けることにより、情報の共有や協働のネットワークを促進させるみどりの交流広場を開催しました。

日時：平成29年2月25日(土)午後1時～5時30分

場所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)

参加団体：20団体

聴講者：約120名

後援：大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、  
京都府、京都市、奈良県、奈良市



# 2016年度事業実績

## 普及啓発・国際交流事業

### 1. 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)教室、講師派遣型セミナーを行うとともに、毎日新聞大阪本社との共催による「小・中学校における生態園づくり」を実施しました。また、幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」を実施し、自然と触れあう楽しさを親子で体験できる機会を提供しました。

コスモスセミナー  
自然観察教室  
～生まれ生きもの  
好きな子供たち  
2016～

開催日：平成28年8月10日(水)～8月12日(金)  
場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷(兵庫県川辺郡猪名川町)  
講 師：三橋 弘宗、山内 健生(兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)  
参加者：近畿圏の小学4年～6年生、中学1年生 26名  
共 催：兵庫県立人と自然の博物館  
旅行主催・実施：ワールドツアーシステム(株)  
後 援：大阪府、兵庫県、兵庫県教育委員会、兵庫県立大学、  
猪名川町教育委員会、JT生命誌研究館、日本環境教育学会、  
日本昆虫学会、(一社)日本生態学会、日本動物行動学会、日本昆虫協会



#### 小学校講師派遣

● 実施日	● 実施校および参加者	● テーマ	● 講師
平成28年6月10日	豊中市立豊島北小学校 3年 95人	動物の命について	長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)
平成28年6月15日	大阪市立古市小学校 3年 69人	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成28年6月24日	豊中市立庄内南小学校 3年 37人	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成28年6月29日	八尾市立西山本小学校 5年 38人	森林・環境について	中村 彰宏(大阪府立大学准教授)
平成28年6月30日	摂津市立鳥飼北小学校 6年 81人	植物の働きや光合成の仕組みについて	渋谷 俊夫(大阪府立大学准教授)
平成28年7月4日	豊能町立東能勢小学校 5年 38人	動物の命について	長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)
平成28年7月5日	泉南市立雄信小学校 3年 38人	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成28年9月23日	堺市立茶山台小学校 3年 33人	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成28年9月28日	堺市立津久野小学校 3年 92人	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成28年12月12日	堺市立土師小学校 4年 90人	動物の命について	長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)
平成29年1月25日	大阪市立東淡路小学校 4年 43人	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成29年2月24日	枚方市立菅原東小学校 3年 111人	環境と命のつながり	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)



#### 小・中学校における生態園づくり

● 学校名(所在地)	● 内 容
香芝市立志都美小学校(奈良県香芝市)	命の繋がりを学ぶ生態園
大阪市立矢田西小学校(大阪府大阪市)	私たちのふるさと大和川
橋本市立三石小学校(和歌山県橋本市)	自然とふれあう憩いのエリア
東大阪市立桜橋小学校(大阪府東大阪市)	人と生物による生物多様性



## 2016年度事業実績

### 普及啓発・国際交流事業

鶴見緑地  
昆虫クエスト

開催日：平成28年9月22日(木・祝) 10時～12時  
場 所：花博記念公園鶴見緑地  
旧生き生き地球館および自然観察体験園周辺  
講 師：八木 剛(兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)  
参加者：約130名  
(鶴見区および近郊の幼稚園・保育園に通う5歳児とその家族)  
協 力：鶴見区子ども園ネットワーク  
共 催：兵庫県立人と自然の博物館



### 2. 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施しました。



### 3. 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4～6月)」および「都市緑化月間(10月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力するとともに、都市公園法施行60周年等記念事業に参画しました。



### 4. 普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

大阪都市緑化  
フェア2016

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに主催者として参画しました。  
開催日：平成28年10月22日(土)～23日(日)  
場 所：万博記念公園お祭り広場(大阪府吹田市)  
来場者：約26,000名  
主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



はならんまん  
2016

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に主催者として参画しました。また、(一社)フラワーソサイエティーと熊本地震の復興募金を共同で行いました。  
開催日：平成28年10月15日(土)～16日(日)  
場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)  
来場者：約40,000名  
主 催：当協会、大阪市





みどりの  
まちづくり賞  
(大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第6回みどりのまちづくり賞に参画し、会長賞を授与しました。  
主 催:当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



公園利用促進  
広報事業  
(情報誌オアフ  
の発行)

大阪府下の公園、緑地の利用の促進等のため、公園情報や当協会事業情報を掲載した情報誌「オアフ」第9号、第10号(各3万5千部、計7万部)を大阪府、大阪市と協働して作成、配布するとともに同誌を常時閲覧できるように「電子版」を作成し、協会ホームページに掲載しました。



## 5. その他の普及啓発

協賛・後援等

花の万博の理念の普及・啓発のため、各種団体が実施する行催事等を協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

後援等一覧

● 催 事 名(開催時期)	● 開 催 場 所	● 主 催	● 名 義 等
第13回2016周防町通り「はなまつり」 (H28.5.1~5.31)	周防町通り(堺筋~御堂筋間)と 大阪市立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り 商店会	後援
第3回公益社団法人日本フラワーデザイナー 協会花検定(H28.9.4)	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡	公益社団法人日本フラワー デザイナー協会	後援
大阪ばら祭2016 (H28.5.13~5.15)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	関西ばら会・咲くやこの花館 運営グループ	後援 会長賞
水都おおさか森林の市2016 (H28.10.2)	近畿中国森林管理局・ 毛馬桜之宮公園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・ 木づかい実行委員会	後援
清流の国ぎふ花かざりコンテスト (H28.8.29~11.12)	岐阜県全域	岐阜県	後援 会長賞
「木を植える国」の知恵と経験 鎮守の森に学ぶ(H28.10.6)	大阪市中央公会堂 (大阪市北区)	一般社団法人 大阪府木材連合会	後援
日本造園学会関西支部設立50周年記念大会 (H28.10.15~10.16)	京都大学「益川ホール」 (京都市左京区)	日本造園学会関西支部	協賛
花博記念協会設立25周年記念ハンギングバスケットギャラリー (H28.9.28~10.10)	服部緑地「都市緑化植物園」 (大阪府豊中市)	一般社団法人大阪府公園協会	協賛
第20回咲くやフォトコンテスト (H28.12.1~H29.2.26)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 及び鶴見区民センター(大阪市鶴見区)	一般財団法人大阪スポーツ みどり財団 咲くやこの花館	協賛 会長賞
平成28年度「都市緑化月間」 (28.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
ぎふフラワーフェスティバル2016in 花フェスタ(H28.11.11~11.13)	花フェスタ記念公園 (岐阜県可児市)	清流の国ぎふ花き戦略会議	後援
第71回日本おもと名品展 (H28.11.26~11.27)	潮来ホテル (茨城県潮来市)	公益社団法人日本おもと協会	後援 会長賞
2017日本フラワー&ガーデンショー (H29.4.1~4.3)	パシフィコ横浜展示ホールC・D (神奈川県横浜市)	公益社団法人 日本家庭園芸普及協会	協賛
平成28年度大阪府花の文化園幼児・ 小中学生花の絵画展(H29.1.5~2.5)	大阪府立花の文化園イベントホール (大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・ E-DESIGN共同企業体	後援 会長賞
小品盆栽フェア第25回春雅展 (H29.3.24~3.26)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人 全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
第19回「国際バラとガーデニングショー」 (H29.5.12~5.17)	西武プリンスドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショー 組織委員会	後援
いけばなインターナショナル大阪支部 第26回フェスティバル(H29.5.28)	大阪国際交流センター (大阪市天王寺区)	いけばなインターナショナル 大阪支部	後援
大阪ばら祭2017 (H29.5.12~5.14)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	関西ばら会・ 鶴見緑地スマイル5	後援 会長賞



# 2016年度事業実績

## 普及啓発・国際交流事業

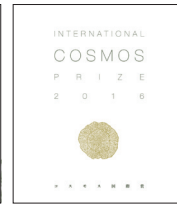
ホームページ等の運営・管理

各事業の情報を適宜更新し、アニュアルレポート等のバックナンバーも新たに掲載しました。また、Facebookでも情報発信に努めました。



コスモス国際賞の広報

最新受賞者を掲載したパンフレットを作成し授賞式等で配付しました。また、2016年(第24回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書を作成(1,500部)し、国内外の関係者に配付しました。2015年の受賞者、ロックストローム博士の業績や活動内容を写真や図を配しながら気軽に読める冊子を作成(3,000部)しました。



情報誌の刊行

「自然と人間との共生」という理念の理解と促進を図ると共に協会の蓄積情報を発信する協会情報誌を発刊しました。



情報の提供

北京国際園芸博覧会事務局等、各種イベント等の主催者に対し、花の万博や当協会保有の事業情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	2件
企業・個人	6件

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配布等しました。



## 2016年度事業実績

### 6. 国際交流事業

海外における青少年交流事業の実施や国際園芸博覧会への出展を行いました。

#### 高校生のための 生き物調査体験 ツアー in 台湾

次世代を担う高校生を台湾に派遣し、自然科学分野の視野を広げると共に、現地の高校生との交流により、国際的な感覚を育成する生き物調査体験ツアーを実施しました。

開催日:平成28年7月24日(日)~30日(土)

場 所:台北市立動物園および東眼山自然教育センター

参加者:日本人高校生20名、台湾人高校生18名 計38名

企画主体:当協会、兵庫県立人と自然の博物館、台北市立動物園、(財)台北動物保育教育基金会

旅行手配:(株)JTB西日本海外旅行西日本支店



#### 国際園芸博覧会 出展協力

2016年4月から10月にトルコ共和国アンタルヤ県で開催された「アンタルヤ国際園芸博覧会」での日本政府出展に協力し、情報発信コーナーの設置や東日本大震災被災地で生産された花きを展示しました。



## 調査研究・ 資料収集 事業

### 1. 生物多様性等に関する調査

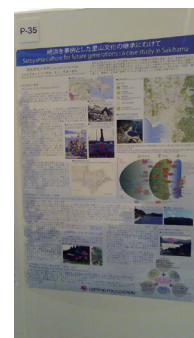
専門家による「生物多様性調査に係る懇談会」の報告書をもとに、「日本固有植物に学ぶ自然のしくみと共生の知恵」として小冊子にまとめ、発刊しました。



### 2. 里山等における共生に関する調査

平成25年度の東北地方、平成26・27年度に関西を対象とした地域特有の花と緑に関わる伝統的文化に関する文献調査や事例調査の結果を踏まえ、石川県で開催された「第1回アジア生物文化多様性国際会議」でポスター発表を行いました。

里山の保全と再生を促進する世界的な取り組みであるSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップに参画し、情報配信に努めました。



## 組織運営

### 理事会 平成28年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第89回理事会	平成28年 6月8日(水)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	平成27年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について
第90回理事会	平成28年 7月20日(水)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	2016年(第24回)コスモス国際賞受賞者の決定について 特定資産の取崩しについて 決議の省略の方法による評議員会の招集について
第91回理事会 (決議の省略)	平成28年 12月20日(水)	—	特定資産の取崩しについて 決議の省略の方法による評議員会の招集について
第92回理事会	平成29年 3月14日(火)	経団連会館 (東京都千代田区)	倫理規程の制定について コンプライアンス規程の制定について ハラスメント防止規程の制定について 助成事業実施規程の改正について 特定費用準備資金及び資産取得資金の取扱規程の制定について 特定費用準備資金の新規保有について 平成29年度資産運用方針書について 平成29年度事業計画及び収支予算について 特定資産について 平成29年度助成団体の決定について 顧問、参与の選任について コスモス国際賞委員会委員の選任について

### 評議員会 平成28年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第47回評議員会	平成28年 6月27日(月)	関西文化サロン (大阪市北区)	平成27年度事業報告及び収支決算書類の承認について 評議員の選任について
第48回評議員会 (決議の省略)	平成28年 8月24日(水)	—	特定資産の取崩しについて
第49回評議員会 (決議の省略)	平成29年 1月25日(水)	—	特定資産の取崩しについて
評議員懇談会	平成29年 2月6日(月)	関西文化サロン (大阪市北区)	平成28年度事業概要について

## 平成28年度決算

貸借対照表 平成29年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
<b>I 資産の部</b>		<b>II 負債の部</b>	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	138,426,839	未払金	22,500,302
未収収益	70,176,195	預り金	631,747
前払金	16,848	賞与引当金	2,469,125
流動資産合計	208,619,882	流動負債合計	25,601,174
2. 固定資産		2.固定負債	
(1)基本財産		退職給付引当金	39,019,900
基本財産普通預金	460,000,000	固定負債合計	39,019,900
基本財産定期預金	400,344,700	負債合計	64,621,074
基本財産投資有価証券	29,655,300		
基本財産合計	890,000,000	<b>III 正味財産の部</b>	
(2)特定資産		1.指定正味財産	
記念基金	9,808,831,257	寄付金	10,000,000,000
退職給付引当資産	39,019,900	基本財産運用益	90,000,000
特定資産合計	9,847,851,157	特定資産運用益	731,610,000
(3)その他固定資産		特定資産評価差額金等	△122,778,743
投資有価証券	9,592,642	指定正味財産合計	10,698,831,257
什器備品	8	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
その他固定資産合計	9,592,650	(うち特定資産への充当額)	(9,808,831,257)
固定資産合計	10,747,443,807	2.一般正味財産	192,611,358
資産合計	10,956,063,689	(うち基本財産への充当額)	(0)
		(うち特定資産への充当額)	(0)
		正味財産合計	10,891,442,615
		負債及び正味財産合計	10,956,063,689

正味財産増減計算書 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

単位:円

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	923,164
基本財産受取利息	923,164
特定資産運用益	234,431,141
記念基金受取利息	234,008,982
特定資産受取利息	22,159
記念基金償還益	400,000
受取寄付金	3,000,000
受取寄付金	3,000,000
雑収益	455,800
雑収益	455,800
経常収益計	238,810,105
(2) 経常費用	
事業費	195,733,097
役員報酬	8,295,000
給与手当	38,480,294
法定福利費	6,672,526
退職給付費用	1,428,253
賃金	1,941,122
職員厚生費	407,986
会議費	1,717,668
旅費交通費	5,926,075
通信運搬費	2,481,830
広告費	956,640
消耗什器備品費	87,607
消耗品費	2,484,335
印刷製本費	5,152,665
光熱水料費	2,426,101
修繕費	283,500
委託費	28,068,565
賃借料	4,687,805
使用料	2,637,267
保険料	202,972
諸謝金	5,770,346
租税公課	21,141
支払負担金・会費	19,298,438
支払助成金	15,667,800
支払手数料	514,697
顕彰賞金	40,000,000
雑費	122,464
管理費	68,912,733
役員報酬	3,555,000
給与手当	29,849,588
法定福利費	5,738,035
退職給付費用	1,125,847
賃金	831,909
職員厚生費	321,603
会議費	736,145
旅費交通費	2,539,747
通信運搬費	1,063,639
広告費	409,989
消耗什器備品費	37,546

科 目	当年度
消耗品費	1,064,714
印刷製本費	2,208,285
光熱水料費	1,039,757
修繕費	121,500
委託費	12,029,386
賃借料	2,009,060
使用料	1,130,258
保険料	86,988
諸謝金	2,473,006
租税公課	9,061
支払負担金・会費	258,600
支払手数料	220,585
雑費	52,485
経常費用計	264,645,830
当期経常増減額	△25,835,725
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△25,835,725
一般正味財産期首残高	218,447,083
一般正味財産期末残高	192,611,358
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	3,000,000
受取寄付金	3,000,000
基本財産運用益	923,164
基本財産受取利息	923,164
特定資産運用益	238,895,708
記念基金受取利息	237,624,608
記念基金投資有価証券償還益	1,271,100
特定資産評価益	30,348,269
記念基金投資有価証券評価益	30,348,269
一般正味財産への振替	△241,947,772
一般正味財産への振替	△241,947,772
当期指定正味財産増減額	31,219,369
指定正味財産期首残高	10,667,611,888
指定正味財産期末残高	10,698,831,257
III 正味財産期末残高	10,891,442,615

## 財団の概要(平成29年4月1日現在)

名 称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

### 評議員 平成29年4月1日現在(50音順)

評議員	青木保之 (学)東洋女子学園理事
評議員	尾崎裕 大阪商工会議所会頭
評議員	角英夫 (特)日本放送協会大阪放送局長
評議員	金田章裕 (大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子 (学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	竹内廣行 大阪府副知事
評議員	田中清剛 大阪市副市長
評議員	土井元章 (大)京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一 (公社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴 (一財)日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子 大阪ガス(株)近畿圏部顧問
評議員	増田昇 (大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸 (公財)松下幸之助記念財団理事長

### 役員 平成29年4月1日現在(50音順)

会長	今井敬 (一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫 阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役社長
専務理事	田中充 常勤
理事	今西英雄 (大)大阪府立大学名誉教授
理事	輿水肇 (公財)都市緑化機構理事長
理事	本間和枝 (公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕 (学)京都学園大学バイオ環境学部教授
理事	和田新也 (一社)日本造園建設業協会副会長
監事	北山諒一 公認会計士
監事	堀井良殷 (公財)関西・大阪21世紀協会理事長

### 顧問 平成29年4月1日現在(50音順)

顧問	中川和雄 大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹 (公財)日本住宅総合センター理事長
顧問	三井康壽 (一財)住宅生産振興財団会長

### 参与 平成29年4月1日現在(50音順)

参与	佐々木正峰 (独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子 JT生命誌研究館館長
参与	波多野敬雄 (学)学習院名誉院長
参与	松本洋 (一財)日本国際協力システム顧問
参与	ルイ・サトウ 在仏建築家

## 協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

### 〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)  
〈管理運営事務、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)  
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、広報、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

### 顕彰事業

#### 1. 2017年(第25回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2017年(第25回)コスモス国際賞事業を実施します。

平成29年度は、2017年の受賞者選考及び決定に加え、2018年の選考準備を行います。2017年の受賞者は7月下旬を目途に決定し、11月6日に授賞式を開催します。

#### 2. BIEコスモス賞

国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞について、2017年アстана万博(カザフスタン)での選考と賞金贈呈を行います。

#### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」については、推進協議会に参画し、実施します。

### 助成・協働事業

#### 1. 調査研究・行催事等助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を実施します。

#### 2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の被災地の復旧・復興を花とみどりで支援するため、復興活動に対して助成を行います。

#### 3. 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働して、「歴史の道みどりの拠点づくり事業」や「花と緑の交流広場事業」を実施する他、「子どもたちと育てる花とみどりによるコミュニケーションづくり」の報告書を作成、配布します。

### 普及啓発・国際交流事業

#### 1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」及び、山野で生き物に触れあう「自然観察教室」を実施するとともに、毎日新聞社との共催による「小・中学校生態園づくり」を実施します。

また、幼稚園・保育園児とその保護者に生き物を通して自然に親しむ機会を提供する「昆虫クエスト大作戦」を実施します。

#### 2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップの開催等を支援します。

#### 3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

#### 4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力するとともに、みどりのまちづくりに貢献する事業や活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」を主催者の一員として参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を、高校生や一般を対象に実施します。

#### 5. 国際交流事業

高校生を台湾に派遣し、自然科学分野の視野を広げると共に、国際的な感覚を育成する「高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾」を実施します。

また、ハングルブ市へ桜の苗木を贈る事業に協力します。

### 調査研究・資料収集事業

#### 1. 生物多様性等に関する調査

花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行うとともに専門家の意見を踏まえ、平成28年度に作成した小冊子を活用して成果を広く発信していきます。

#### 2. 里山等における共生に関する調査

過年度に行った「地域特有の花と緑に関わる伝統的文化に関する文献調査や事例調査」や「第1回アジア生物文化多様性国際会議」への参加の成果を踏まえ、造園学会と共催で公開研究会を実施します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「ムニンノボタン」

2016年コスモス国際賞受賞者である岩槻博士が園長を務めた東京大学理学部附属植物園が増殖技術を開発した希少植物です。

写真は、この花をモチーフに制作したアートフラワーで、2016年(第24回)コスモス国際賞授賞式にコサージュ、ブートニアとして使用しました。